

# 長宗我部氏

当館は、かつて長宗我部氏の居城があった岡豊山に立地しています。ここは、土佐を統一し、四国統一まであと一歩のところまで近づいた戦国大名である長宗我部元親が誕生した地です。

そのため、長宗我部氏に関する研究を進めることを当館の使命の一つとして活動しており、皆さまのご理解を賜りながら、長宗我部氏や四国の戦国時代に関する史料を多数収集しています。その成果をこれまで五回にわたって特別展や企画展において発表してまいりました。さらに、平成二十二年（二〇一〇）からは、長宗我部氏について詳しく紹介する「長宗我部展示室」を設け、長宗我部氏や四国の戦国時代に関心を持つ来館者の皆さまから高い評価をいただいております。

今回は、それらの史料を中心としながら、長宗我部氏の歴史を紹介する図録を作成することといたしました。

本図録は、これまで当館が受贈・受託・収集してきた館蔵史料を中心とし構成しております。また、古文書は図版を掲載し、語釈を付けるとともに、できるかぎりふりがなを付して、幅広い年代の方々にわかりやすい内容にするように工夫しております。この図録の刊行が、多少なりとも今後の長宗我部氏研究に資することができたら幸いに存じます。

最後になりましたが、これまで当館の活動にご理解を賜り、貴重な史料をご寄贈・ご寄託及びご貸与くださいました方々に厚くお礼申し上げます。

令和三年三月一日

高知県立歴史民俗資料館

館長 福田 道則

目次

ごあいさつ	2	浦戸城周辺マップ	50
目次	3	第五章 後継者 信親の死	51
凡例	4	コラム⑥ 長宗我部氏の「本陣」を再現	59
プロローグ 元親の先祖	9	コラム⑦ 元親・信親墓所入替説	60
コラム① 古文書を見るときのポイント	12	第六章 豊臣政権下の長宗我部氏	61
第一章 中興の祖 国親	13	コラム⑧ 岡豊城から浦戸城へ	70
コラム② 「一領具足」とは	19	第七章 最後の当主 盛親の苦悩	71
岡豊城周辺マップ	20	コラム⑨ 長宗我部氏改易と浦戸一揆	84
第二章 元親による土佐統一	21	エピローグ 改易後の盛親	85
コラム③ 土佐の国主は誰か	29	コラム⑩ 「長宗我部」の由来はどこから	90
大高坂城周辺マップ	30	コラム⑪ つくられた元親のイメージ	91
第三章 四国制覇に向けて	31	元親ものがたり	92
コラム④ 長宗我部氏は四国を統一できたのか	42	年表	94
第四章 天下人と対峙する元親	43	掲載史料目録	97
コラム⑤ 本能寺の変「四国説」をめぐる	49	主要参考文献	99

## 第一章

# 中興の祖 国親

ちゅうこう

そ

くにちか

諸説あるが、元親の父国親は永正二二年（二五二五）に生まれたとされる。

大永元年（二五二二）ごろ、土佐の有力な武士である吉良氏・大平氏・本山氏が長宗我部氏の居城岡豊城に攻め入り落城した。

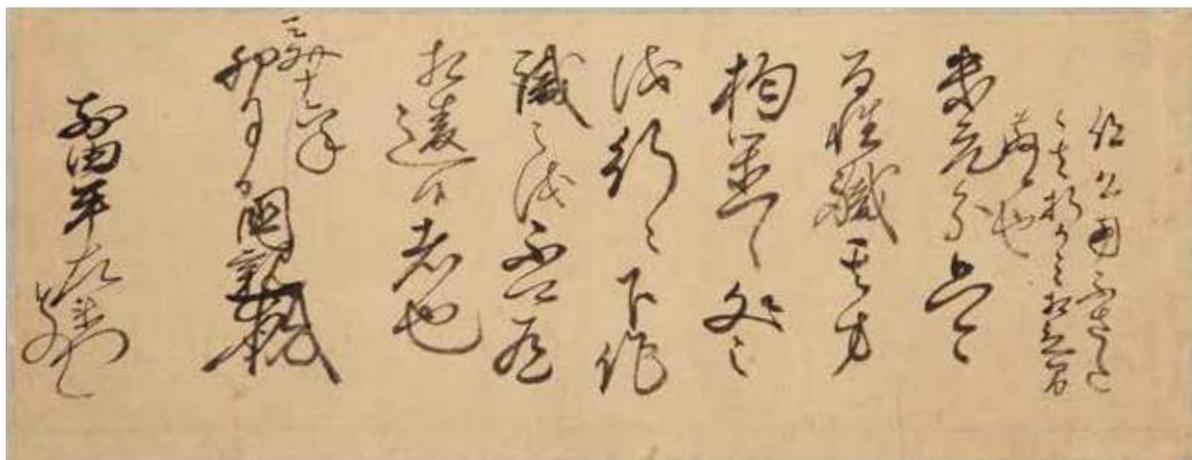
まだ幼い国親は岡豊城を脱出し、幡多郡の一条氏のもとで保護されたという。

その後、遅くとも天文三年（二五三四）には岡豊城へ帰還した国親は、敵対関係にあった本山氏の娘を妻に迎えて和睦を結んだ。さらに、周辺武士たちを取り立てて地盤を固めると周辺地域へと進出していった。

長岡郡や香美郡で勢力を拡大させる一方、永禄元年（二五五八）には土佐国分寺の金堂を再建し、土佐一宮である土佐神社の修造を呼びかけるなど、地域寺社の再興につとめた。また、永禄元年ごろには和睦を結んでいた本山氏との戦いを始めるが、その降伏を待たずに同三年六月に死去したという。

ここでは、元親の父である国親に関する史料を紹介していきたい。

# 地域の武士の権利を保証



### ■ 釈文

但、公用ふざた候者、折かミ相立間敷候也、  
幾元分只今百姓職、其方抱置候処之儀、行々下作職之儀不可有相違候  
者也、

天文十六年

卯月日 国親（花押）

前田平左衛門とのへ

### ■ 語釈

公用…：荘園、国衙領、名田、関所などの年貢など公的な需要をみたす  
のに必要な費用。

折かミ…折紙…：料紙を横に半折して用いた古文書の様式。

幾元分…：人名もしくは地名だと考えられるが不詳。

百姓職…：中世、荘園の諸職の一つで、特定の土地の耕作権をもつもの。

下作職…：農業生産の発展に伴って重層的な分化を深めた耕作地に対  
する権利（職）のうち、最も下層のもの。

前田平左衛門…：大忍庄（香美市）の地侍。

### ■ 大意

現在、あなたが幾元分において百姓職を持っている土地について、こ  
れから将来は下作職についても相違があつてはならない。  
ただし、税の納入を怠つた場合は、権利を保証する折紙は出さな  
い。

### 3 長宗我部国親安堵状

天文一六年（一五四七）四月日付  
前田平左衛門宛

館蔵

長宗我部国親が、香美郡山北を本拠  
とした地侍の前田平左衛門が有する百  
姓職を安堵し、さらに下作職につい  
ても新規に承認した判物。

本文書が出された天文一六年には国  
親の発給文書が連続して確認されてい  
る。

この時期の国親は隣接する香美郡に  
向けて勢力を拡大させるとともに、浦  
戸湾に至る水運の拠点である長岡郡大  
津（高知市）にも進出していった。